



日立市を代表する観光交流拠点『かみね公園』の再生を目指して

観光交流拠点「かみね公園」の再生を目指して（日立市）

◎はじめに

日立市は、県北東部に位置しており、東は太平洋、西に阿武隈山系が連なる豊かな自然に恵まれた都市です。

穏やかな気候に恵まれ、明治時代より鉱工業、特に電気機器関連や銅などの製品製造を中心にものづくりのまちとして発展してきました。

現在は、工業都市として育まれた技術集積と人材を活かして既存産業を発展させていくとともに、少子高齢社会などの変化に対応した新たな産業の展開を目指しています。また、地域の活力の向上と交流人口の拡大を図るため、山・海などの豊かな自然と既存の観光施設を活用した、『日立らしさ』の創出が必要になっています。

今回、本市を代表する観光交流拠点である『かみね公園』についてご紹介します。



【桜咲く頃のかみね公園】

◎かみね公園は

戦後の昭和23年、現在の宮田町に憩いの場を求める市民の要望に沿って、市民公園として公園施設の整備に着手し、昭和24年に都市計画公園として計画決定されました。

昭和32年、園内にかみね動物園が開園し、その後レジャーランドや市民プールなどが整備され市を代表する観光交流拠点となり、最近では本市出身の作曲家である吉田正氏の業績をたたえる音楽記念館も新たにオープンしました。

また園内には桜が多数植えられており、日立駅前の平和通りの桜並木とあわせて『日本さくらの名所100選』に選ばれております。

さて、そのかみね公園の中心的施設であるかみね動物園は、開園以来県内唯一の本格的な動物園として、日立市民のみならず近隣市町村や県外の方々からも親しまれてきました。読者の皆さんの中にも、幼少時に遠足や家族で一度や二度は訪れた方がいるのではないのでしょうか？

園内からは太平洋が一望でき、また桜の時期ともなれば、お花見と動物見学が一度にできることから多くの人でにぎわいます。

もちろん、飼育動物の種類・数も本格的で、国内で29頭しかいないニシローランドゴリラや、国内7箇所の動物園でしか見られないクロサイなどの希少動物をはじめ、ゾウやライオン、トラ、キリンなど、ちびっ子たちの人気動物も勢揃いしています。また子ども動物園には、ウサギやモルモット、ニシキヘビなどと直接接触れ合って遊ぶことのできるふれあい広場が設けられており、生物の命の温かさを文字通り肌で感じることが出来ます。

これまでにかみね動物園を訪れた方は1,600万人を超え、たくさんの方々に愛されてきましたが、ここ数年大きな課題に直面することになりました。

それは、時代の流れとともに観光ニーズが多様化し、来園者が減少傾向にあるということです。少子化や施設の老朽化も減少に拍車をかけました。現在の年間入園者数は約27万人、最盛期の45万人に比べて40%ほど落ち込んでいるという厳しい現状にあります。

こうした現状を何とか改善し、動物園共々かみね公園を名実ともに本市を代表する観光交流拠点として再生させようと、公園活性化のための計画を策定し、平成18年度からまちづくり交付金を活用し様々なハード・ソフト事業を進めています。



◎再生に向けたまちづくり交付金関連事業

主なハード事業としては、老朽化した獣舎（チンパンジー舎）の再整備や授乳室などの利便施設を備えた公園事務所（ウェルカムプラザ）及び公園入口を演出するエントランスの整備などを予定しています。

特に、チンパンジー舎再整備は、スペースを拡大して飼育頭数を増やし、群れ飼いを実現することによって動物たちの興味深い動きを観覧者に御覧いただけるような工夫をしていきたいと考えています。

主なソフト事業としては、動物園が平成19年度に開園50周年を迎えるのでそれを記念した各種事業などを実施しております。

平成18年度は、動物園の動物を被写体にした写真コンクールやシンボルキャラクター募集、50周年記念誌作成や施設PRラッピングバス運行などを実施しました。

特に、動物園のPRとイメージアップ向上が期待されるシンボルキャラクター募集では、600点を超える応募があり、「かみねっちょ」が特選に選ばれました。



かみね公園
シンボルキャラクター
【かみねっちょ】

また、ラッピングバス運行は、開園以降初めての試みで福島県のいわき駅と水戸駅の周辺を運行しています。

動物たちをデザインしたカラフルなバスですのでご覧になった方もいるかと思います。

両地域に加えて日立市内でも平成19年度から運行する予定です。



【ラッピングバス（いわき市）】

平成19年度は、6月3日の50周年記念式典を中心に約100日間にわたり、参加型のフォーラムや移動動物園、動物クイズラリーや動物折り紙教室など盛りだくさんのイベントを予定しているほか、夜の動物園などの既存イベントもパワーアップして実施しますので皆様にもぜひお越しただいて楽しんでいただけたらと思います。

動物園はかつてレジャー施設という側面が中心でしたが、現在ではそれに加えて社会教育の場や貴重な種を保存する場としての役割も重要になっています。

かみね動物園でも現在、動物たちの繁殖に積極的に取り組んでおり、愛らしい動物の赤ちゃんが増えれば施設の新たな魅力アップにもつながると思います。

◎おわりに

今回ご紹介したまちづくり交付金の事業は平成22年度で区切りを迎えるわけですが、このような施設の魅力を維持し、更に高めていくことは一朝一夕にできることはありませんので、将来的にも息の長い継続的な取り組みをしていきたいと考えています。

日立市産業経済部

かみね公園活性化担当

TEL：0294-22-3111 内線474